

カードゲーム通じ 森林保全を考える

三村小で特別授業

山梨日日新聞社は5日、中央・三村小で、森林に関心をもち、持続的な活用に必要な

行動を考えてもらおうと同社が開発したオリジナルカードゲーム「moritomorir ai(モリトミライ)」を使った特別授業を行った。写真。6年生55人が2グループに分かれて参加し、一つの町に



住んでいるという設定で、それぞれが「木を切る人」「販売会社の社員」など10の役割のうちの一つを担当。「材木を販売する」「スマート林業を導入する」といった行動を示すカードを使い、「森への愛情」など森林の現状を示す四つのメーターに配慮しながら、設定された資金の獲得などのゴールを目指した。内藤由乃さんは「森林整備の大切さを学ぶことができた。ゴールを目指してみんなで協力したり、情報交換したりするの

が楽しかった」と話していた。NNS日本ネットワークサービスは、地域貢献活動の環境で今回の特別授業を支援した。